



第2次安倍内閣の動向

2009年の総選挙で、自民党の長期政権から民主党へと政権交代が行われたものの、寄せ集めで未熟な民主党は国民の期待を裏切り、鳩山・菅・野田と内閣が変わった末、今年の総選挙では政権はあえなく自民党に戻ってしまった。そして、その自民党は小選挙区制の下で絶対多数を占め、一党独裁の態をなしている。

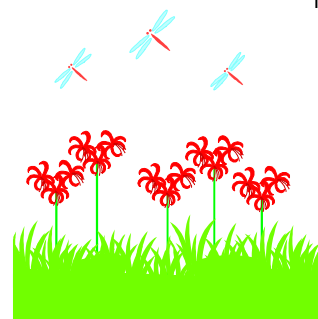
そこで、第2次安倍内閣をリードする安倍首相は、第1次内閣の失敗の轍を踏むまいと必死で、人気取りのため「アベノミクス」と称して景気浮揚を図っている。その結果、マスコミによれば、6割以上の内閣支持率、と自信を深めている。さらに、今年7月の参院選でも大勝して、「ねじれを解消」し参院でも絶対多数を占めることになり、憲法改正も発議できる態勢をとるにいたった。

そして、当の安倍首相は、太平洋戦争の戦争指導者の一人でありながら戦後安保改定時の首相を務め公然と改憲をかかげた岸信介の孫で、その祖父と同じく改憲に政治生命をかけているようである。

自民党の憲法改正草案は、天皇の元首化、憲法9条を変えて国防軍の保持などの逆コースを公然と掲げ、安倍首相もいよいよ本領を発揮し始めたようである。そして、講和条約61年目の本年4月28日を「主権回復の日」として、沖縄県民の反対を無視して政府主催の式典を初めて開催した。8月15日の敗戦の日の戦没者追悼式の首相式辞では、歴代首相の式辞から一変して、不戦の誓いや東アジア諸国に対する加害責任の反省はなく、近隣の韓国や中国も安倍首相の歴史認識に警戒を示している。

安倍内閣の支持率が高いといっても、参院選の比例代表得票率は35%弱に過ぎず、平和的国民は支持していない。しかし、反対意思をしっかりと示さなければ独走する危険性があるので、われわれ九条の会がはっきり対決姿勢を示して、「戦争をする国」への改憲の企てを粉砕していかなければならないと考える昨今である。

(代田5丁目・野間口 至)



シリーズ「戦争について語る」

8月に代田・九条の会が企画した、「終戦記念日によせて一すいとんを食べながら戦争を語る会」には、多くの方が参加され、貴重なお話を伺えました。ぜひ活字にして残しておきたいと考え、何人かの方に寄稿していただきましたので、シリーズで順次掲載していきます。また、貴重な体験や若い世代に残しておきたいことなど、原稿を募集しています。(編集担当)

昭和20年(1945年)八歳の私は、富士山の麓の町で、祖母父母弟妹と暮していました。父は兵隊に往きましたが、三年で除隊になり、家に帰ってきて間もなく床についてしまい、幼い私には何が何だかわからない内に、その年の四月に亡くなってしまいました。三十七歳でした。後で聞けば肺病だったのでした。闘病中は薬も何にもなく、母はただ栄養のあるものを食べさせようと鳩を調理していたのを思い出します。父は家の畳の上で、家族に囲まれて死んでいったのに、戦地で亡くなった(殺された)多くの戦死者が帰ってくるのを、私達小学生は駅で整列して迎えました。その時、同じ組の男の子が、戦死したお父さんの白い骨箱を胸に大人の中に混じって、泣きそうな顔で私達の前を通って行ったのを思い出します。

町に空襲はなかったのですが、富士山の頂上を目指して、アメリカの飛行機がやってきました。その後あちこちの都市が空襲にあったのでした。あのいやな何とも恐ろしい爆音は今でも耳に残っています。ある日、アメリカの飛行機一機が畑の中に墜落し、みんなで見に行きました。若いアメリカ兵が一人血まみれになって生きているようでしたが、もう一人は横たわって動きませんでした。私はそーっと見ましたが、すぐ目をとじて逃げ出しました。もう二度と見たくないものです。

父がいなくなってしまった私達は、祖母と親戚の叔父叔母に助けてもらい成人することができ、感謝するのみです。

終戦後、新しい憲法ができた時、小学校の先生が、戦争放棄という難しい言葉がよく分からないという顔をしている私達に、「戦争をすてた日本になったのです」と話されたことを、うれしかったこととして今もしっかり受け止めています。

(代田2丁目・米山 禮子)

～ 私たちが住み、暮らし、働いているまち 代田で、
「日本国憲法第9条」をまもり、活かす活動をすすめましょう ～

世田谷区内「九条の会」交流集会に参加して

9月8日に世田谷民主商工会の会議室にて、区内九条の会の交流会が世田谷・九条の会の呼びかけで開かれました。まつざわ、烏山、喜多見、砧・大蔵、新町・弦巻、代沢、代田、成城・祖師谷等の8つの地域で活動する九条の会からと、個人参加者含めて17人が集いました。

はじめに、事務局の高岡さんより、昨今の情勢をふくめた挨拶がありました。このなかで、8日早朝に2020年のオリンピックの開催地として東京が選ばれたことについて触れ、「日本のプレゼンテーションで、オリンピックの精神にある『平和な世界の構築への貢献』について全く語られていないことに驚きと危惧を感じずにはいられない」と語りました。「九条を改憲し、軍隊を持ち、戦争する国へ変える策動がこの精神とは相反する。改憲の下でのオリンピックには反対する」と続けました。私も全く同感で、さらに、安倍首相の福島第一原発事故に関する独断的で根拠の乏しい現状認識に基づく演説は撤回すべきであるととらえています。

続いて、地域九条の会からの報告があり、質疑応答や感想などが語られ、討論もありました。地域ごとに、それぞれが九条を守るという一点から独自の運動を模索しながら作り上げている様子が伝わってきました。一方で、「若い人が運動に加わってこない」という難題を、共通してかかえていることも明らかになりました。

喜多見・九条の会は、工夫を凝らした小冊子「安倍首相と改憲派がねらう憲法96条って、なに？」の作成と、駅頭での配布活動を報告。討論に重きを置く代沢・九条の会、近代史の学習会やピースウオークを継続している烏山地域の会のユニークな活動も報告されました。会のニュースを1000~2000部発行し、駅頭やポスティングによって配布する活動がまつざわ、砧・大蔵、新町・弦巻、代沢などの九条の会より報告されました。世田谷講師派遣事業として学習会を企画する、公共的な掲示板を利用して宣伝するなど、有志の運動から地域の運動へと運動のあり方を発展させている報告もありました。これらの活動報告は世田谷・九条の会よりHP上に公開することが予定されています。

後半で「共通する難題」-「若い年代の人をどうとらえるのか」という疑問に答える中で、難題を解く糸口が見つけられたような気がしました。10代でも、20代でも、30代でも、40代でも、50代でもなく、60代が私たちにとって若い人だということです。この年代の人は毎年生まれてきます。自由な時間を持っています。お孫さんがいれば平和の思いを強くいただいています。この年代層を味方することはできそうです。運動を無理なく発展させる分岐点が確認できたと思います。有意義な交流会でした。(代田2丁目・坂本 功)

集会等の紹介

9月28日(土) 午前10時 井の頭沿線9条の会 交流会

会場：浜田山会館 第一集会室

10月6日(日) 午後1時40分~ 学習会~『戦争する国』への暴走を止める

講演：沖縄の視点から見た安保・憲法の現状(仮題)

前泊 博盛さん(沖縄国際大学大学院教授)

会場：東京しごとセンター講堂(千代田区飯田橋3-10-3)

主催：九条の会事務局

参加費：1000円

要予約：メール mail@9jounokai.jp か、Fax 03-3221-5076

10月23日(水) 午後6時45分~ 憲法学習会

講演：宇都宮 健児さん(弁護士)

会場：世田谷区民会館。集会室

主催：生かそう憲法！今こそ9条を！世田谷の会

連絡先：世田谷地区労(Tel 3425-1234) 世田谷区労連(Tel 3415-33341)

11月4日(月・休日) 午後1時半~4時半ころ

代田・九条の会 創立記念の集会

講演：「日本国憲法を鍛え直すー「いのち」の視点から」

高橋 哲哉さん(東京大学教授)

文化行事：マジック タジマジック & わか葉さん

11月16日(土) 九条の会 「全国交流・討論集会」

演題と出演者が
決まりました

お願い：ニュースの原稿を募集しています。400字位で、お近くの世話人までお寄せください。
また、活動費用に充てるためのカンパをお願いします。